

2020年9月 6日(日)礼拝説教要約
説教「自分の罪に泣く」
(ヨハネ福音書18章12～27節)

今日は、ヨハネ福音書の18章に入って2回目です。ここには、イエス様が逮捕された後、大祭司カイアファの義父・アンナスの所に連れて行かれてイエス様がアンナスに尋問される場面と同時に、その屋敷の中庭で、弟子ペトロがイエス様と一緒にあったことを三度にわたって否認した場面が描かれています。今日は、ここから2つのメッセージを聴いて参りたいと思います。

まず、尋問の場面を見ていきます。イエス様は逮捕された後、アンナスの所に連れて行かれます。アンナスは元大祭司で、その4人の息子たちも大祭司を務め、その娘の夫カイアファは当時の大祭司でした。

この時、カイアファは、「一人の人間が民の代わりに死ぬ方が都合がよい」と考え、既にイエス様を死刑にすることは決めていました。カイアファはアンナスの了解を得られればイエスを死刑にできると考え、最初にアンナスの所に連れて行ったのでした。

アンナスの尋問に対してイエス様は「何か悪いことを私が言ったのなら、その悪い所を証明しなさい。正しいことを言ったのなら、なぜ打ったのか」と言われました。

それに対してアンナスは何も言いません。アンナスにとって真理の問題や正義の問題、神の教えに適っているかどうかは問題ではなかったのです。

結局、彼らにとって重要だったのは「自分たちにとって都合がいいかどうか」であった。宗教者であった彼らは自分の地位や立場、都合が最優先されたのです。つまり、彼らは神に仕える者でありながら神を軽んじていた。軽視していたのです。ここに彼ら

の心の驕り・傲慢があったと言えます。

この驕りと傲慢は私たちの中にもあります。神と人を尊ばず、軽んじている。ここに人間の驕りと傲慢の罪があります。この人間の驕りと傲慢がイエス様を十字架につけたのです。

もう一つの場面を見ていきましょう。それはイエス様の後をついてきた弟子のペトロがイエス様を三回にわたって否認した場面です。

イエス様のことを心配してペトロは、アンナスの屋敷の中庭に入りました。そこでペトロは「お前はイエスと一緒にいた」と言われ「違う」と否認します。その否認を三回続けたところで、鶏が鳴いたと書かれています。

他の福音書では、その後、外に出て激しく泣いたと書かれています。最後の晩餐の席で「最後まで従います」と誓ったペトロに対して、イエス様は「私を三度否定した後、鶏が鳴くだろう」と予告されましたが、その予告通り、ペトロは三度否定しイエス様を裏切ったのです。

自分の罪に泣く姿は私たちの姿でもあります。いざという時に真実を否定し、真実を言えない私たち。人間が弱さと言う罪、裏切りと言う罪を抱えていることを、このペトロは教えています。

しかし、このペトロしか知らない出来事が福音書に書かれていると言うことは、このことをペトロが何度も語ったことを示しています。

それはなぜか。それは、その後、そのようにイエス様を裏切ったペトロをイエス様がゆ

るし、また、深く愛しておられることを知ったからです。

復活の主の愛と赦しがペテロを立ち上がらせたのでした。そのように聖書は私たちへの罪の赦しと新生という再出発をも告げているのです

2020年9月6日(日)礼拝説教抄(説教本文から)

「聖書の神様は正しい方であり、私達は正しく生きることが求められている。しかし、他方、神様は愛と憐れみの神様である。だから、私達が自分の罪を心から悔い改め、心を入れ替えて新しく神と共に歩もうとするなら、赦していただける、再出発することができるのです。

神様は、過去の罪に囚われて、自分を責め続けて生きるよりも、むしろ、自分の罪を深く悔い改め、回心し、大きく方向転換して、神と共に輝いて生きることを求めておられるのです。

ペテロが、イエス様を裏切ったという自分の恥ずかしい過ちを周囲の人達に話すことができたのは、そのような大きな方向転換をしたからです。

では、それは何によってできたのでしょうか。それは、イエス様の愛のまなざしとイエス様の赦しを知ったからです。

ルカによる福音書には、ペテロが三度目にイエス様を知らないといって否定した時、イエス様が振り向いてペテロを見つめられたということが書かれています。この時のイエス様のまなざしは、どんなまなざしだったのか。それは決して、ペテロを非難するような冷たいまなざしではなかった。そうではなく、むしろ、イエス様を知らないといって否

定したペテロを深く憐れむ、愛のまなざしであった。だから、この時、ペテロは、イエス様を裏切った自分が情けなくなり、外に出て激しく泣いたのだと思います。

ヨハネによる福音書の21章によると、この後、ペテロは、故郷のガリラヤに戻って、昔、やっていた漁師に戻って仕事をしていたことが書かれています。

そのペテロの前に復活したイエス様が現れて、食事を共にした後、イエス様はペテロに『私を愛しているか』と尋ねます。ペテロは、『私があなたを愛していることは、あなたがご存じです』と答えます。

すると、また同じようにイエス様がペテロに尋ねると、同じようにペテロが答えます。そしてさらに、三度目、同じように尋ねられた。すると、ペテロは、悲しくなって、『主よ、あなたは何もかもご存じです。あなたが私を愛していることをあなたは良く知っておられます』と答えたと言います。

すなわち、ここで三回否定したペテロの言葉を打ち消すかのように、イエス様は、三回、私を愛しているかと尋ねられたのです。

ここに、ペテロはイエス様の赦しと深き愛を感じます。自分のような罪深き者を、主イエスは赦して下さった。ペテロは、十字架上で命をかけて赦して下さったことをここで初めて知ったのです。

ここから、ペテロの新しい使徒としての人生が始まりました。ペテロは、復活の主と出会ってイエス様の赦しと深き愛を感じたからこそ、イエス様こそ救い主であるということを命をかけて宣べ伝えることができたのです。

ペテロの、この告白は、ただ自分の過去の罪をあばくことが目的なのではなく、この出来事を通してイエス様の赦しと深き愛と恵みをこの世に伝え、証しするためだったの

です。この主イエスの愛は、生涯、ペテロの胸に生きていた。燃え続けていた。この主の愛のまなざしは、ペテロをいつも支えていた。そう言っているでしょう。

この愛のまなざしは私達にも向けられています。主イエスの愛は、私達にいつも途絶えることなく注がれているのです。私達は、この主の愛がいつも私たちに注がれ、私たちの心を満たしていることを感謝しつつ、今週も歩んで行きたい。そう思うのです。」